

PN - JP8041723 A 19960213

PD - 1996-02-13

PR - JP19940173798 19940726

OPD - 1994-07-26

TI - SAFETY HELMET FOR RIDING

IN - ARAI MICHIO

PA - ARAI HELMET KK

IC - A42B3/08 ; A42B3/16

TI - Safety helmet strap installation structure - has surface material forms drip cover extending from lower end further downward of ear cup and outside of drip cover sticks out along mandible strap

PR - JP19940173798 19940726

PN - JP8041723 A 19960213 DW199616 A42B3/08 004pp

PA - (ARAI-N) ARAI HELMET LTD

IC - A42B3/08 ;A42B3/16

AB - J08041723 The structure includes a mandible strap (3) installed in both sides of case (1). An ear cup (4) is equipped to enclose installation base of the mandible strap. A surface material (10) makes the face of the person wearing the helmet engages with the ear cup.

- The surface material drips and forms a cover (11) doing the extension projection from the lower end further downward in the said ear cup. The outside of the drip cover sticks out along the mandible strap.

- ADVANTAGE - Integrates helmet with head. Enables back and forth, and right to left mounting. Reduces tiredness feeling caused in adhering back and forth gear of helmet. Prevents mandible strap from directly touching face. Engages integration with ear cup easily by inserting mandible strip.

- (Dwg.1/2)

OPD - 1994-07-26

AN - 1996-157581 [16]

PN - JP8041723 A 19960213

PD - 1996-02-13

AP - JP19940173798 19940726

IN - ARAI MICHIO

PA - ARAI HELMET:KK

TI - SAFETY HELMET FOR RIDING

AB - PURPOSE:To produce a helmet capable of stopping shake in the longitudinal direction of the helmet without changing stress of an elastic material forming ear caps as in the conventional method and raising a wearing feeling of helmet.

- CONSTITUTION:In a jet type helmet in which a base part of a chin band 3 is fixed to a right and a left insides of a cap material1 and ear caps 4 are attached to the helmet so as to enclose the fitting base part of the chin band, a surface material10 of a face to be brought into contact with the face of a wearer in the ear caps4 is extended and projected further downward from the lower end of the ear cap to form handing a cover11, and the chin band is stretched along the outside of the projected hanging cover, joined and integrated.

I - A42B3/08 ;A42B3/16

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-41723

(43)公開日 平成8年(1996)2月13日

(51)Int.Cl.⁶

A 42 B 3/08
3/16

識別記号 庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 有 請求項の数2 OL (全4頁)

(21)出願番号

特願平6-173798

(22)出願日

平成6年(1994)7月26日

(71)出願人 000126953

株式会社アライヘルメット

埼玉県大宮市東町2丁目12番地

(72)発明者

新井 理夫

埼玉県大宮市東町2丁目12番地 株式会社

アライヘルメット内

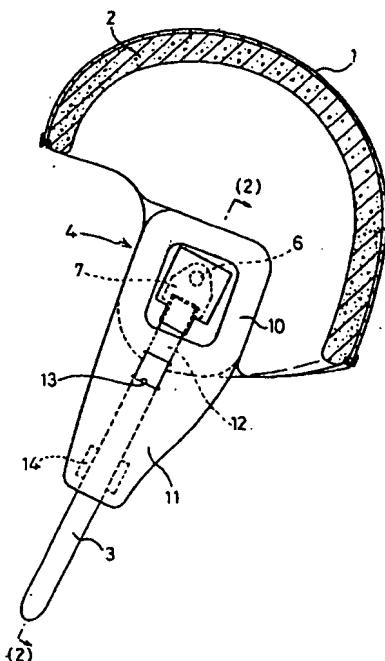
(74)代理人 弁理士 早川 政名

(54)【発明の名称】 乗車用安全ヘルメット

(57)【要約】

【目的】 耳カップを形成する弾性体の応力を従来と変えずにヘルメットの前後方向へのグラ付きを止め、ヘルメットの装着感を高めることができるヘルメットを提供すること。

【構成】 帽体1の左右内側に頸バンド3の基部が取り付けられ、その頸バンドの取り付け基部を囲むように耳カップ4が装備されたジェット型ヘルメットにおいて、前記耳カップ4における着用者の顔に触れる面の表面素材10を該耳カップの下端より更に下方に延長突出させて垂れ覆い11を形成し、その突出した垂れ覆いの外面に頸バンドを沿わせ係合一体化させる。



【実施例】以下、本発明の実施例を図面に基づき説明する。図1はジエラト型ヘルメットの縦断面図で、図中、1は繊維強化樹脂材で今日周知の形状に成形された帽体で、その帽体1の内側には発泡スチロール等で形成された衝撃吸収ライナー2が嵌合装着されると共に、帽体1の左右両側の耳と対応する部分には頸バンド3の基部側が回動可能に取り付けられ、その取り付け部を囲むように耳カップ4が帽体1の内面に取り付けられている。

【0010】帽体1に対する頸バンド3の取り付けは、帽体1の内側所定箇所に受け座5を止め具6で固定し、その止め具6に対して頸バンド3の基部に取り付けた掛止め具7を着脱自在に掛け止める。尚、頸バンド3の取り付けは図示した着脱自在な構成に限られるものではなく、今日一般的に採用されているリベット止めによる固定構造でも勿論よいものである。

【0011】上記した頸バンド3の取り付け部を囲む如く取り付けられる耳カップ4は、ドーナツ状の弾性体8を肌触りのよい被覆材9で被覆してなるもので、その耳カップ4は、上述した頸バンド3の取り付け構造を利用して帽体1に対して着脱自在に取り付けられている。尚、耳カップ4の着脱自在な取り付け形態としては、図示の機構の他に、掛け止め手段を備えた台板を帽体1の内面に固定し、その台板に対して耳カップを掛け止め手段により取り付けたり、或いはベルベット式ファスナーを利用して取り付ける等が挙げられる。勿論、この耳カップは帽体1に対して固定状態に取り付けられてもよい。又、耳カップ4の形状は図示した略四角形のリング状に限られず、衝撃吸収ライナー2の下側縁と接する部分が切欠された略V字型、或いは略U字型等でもよい。

【0012】以上の如き形態に因って帽体1の内側に装備される耳カップ4における被覆材9の内、顔と接触する表面素材10を該耳カップ4の下端から下方に延長突出させて垂れ覆い11が形成され、その垂れ覆い11の外側面に前記した頸バンド3の開放側が係合一体化されている。垂れ覆い11に対する頸バンド3の係合一体化は、該バンドの開放側を耳カップ4に形成した通孔12に挿通して該耳カップの内側に突出させ、さらに垂れ覆い11に開設した溝13に内側から外側に向けて該バンドを通して頸バンド3を垂れ覆い11と一体化する。

【0013】頸バンド3を垂れ覆い11と係合一体化する他の手段としては、頸バンドの開放側を耳カップ4の径方向内側から外側に向けて開口した通孔に挿通して垂れ覆い11の外側面に沿わせて突出させ、その突出側を垂れ覆い11の外側に設けたバンド通しに通して係合一体化するなどが挙げられる。尚、図面はヘルメットの左側半分のみを図示しているが、頸バンドのもう一方が取り付け

られた右側も左側と同様の構造であるため図示及び説明を省略する。

【0014】以上の如く構成したヘルメットを頭に被り、頸バンド3を顎の下に位置させて締め付けると、その頸バンドの締め付けによって内側に配置された垂れ覆い11は顎に密着され、しかも頸バンド3は耳カップ4から延長した垂れ覆い11と係合一体化されているため、頸バンド3の取り付け基部は回動可能であっても耳カップから延長突出した垂れ覆いと係合することで該頸バンドが帽体に対し独立して回動しようとする動きが止められ、頸バンドの数倍の幅を有する垂れ覆いが頸バンドの作用をなし、左右方向、及び前後方向へグラ付きのない装着を可能にする。従って、ヘルメットは頭部と一体化し、ヘルメットは前後及び左右方向へグラ付くことはなく、ヘルメットがグラ付くことで生じる疲労感を大幅に軽減することができる。

【0015】

【発明の効果】本発明のヘルメットは以上詳述したように、帽体の左右内側に頸バンドの取り付け基部を囲むように装備される耳カップの着用者の顎に触れる面の表面素材を該耳カップの下端より更に下方に延長突出させて垂れ覆いを形成し、その突出した垂れ覆いの外側に頸バンドを沿わせ係合一体化させたものであるから、頸バンドの取り付け基部は回動可能であっても耳カップから延長突出した垂れ覆いと係合することで該頸バンドが帽体に対し独立して回動しようとする動きが止められ、頸バンドの数倍の幅を有する垂れ覆いが頸バンドの作用をなし、前後方向及び左右方向へグラ付きのない装着を可能にする。従って、ヘルメットは頭部と一体化し、ヘルメットが前後方向にグラ付くことで生じる疲労感を大幅に軽減することができる。

【0016】又、請求項2の如く上記頸バンドの解放端を耳カップを貫通して垂れ覆いの外側に突出させ、垂れ覆いの外側に設けたバンド通しに挿通させた場合は、頸バンドの挿通作業によって簡単に耳カップとの係合一体化を行うと共に、垂れ覆いは頸バンドが直接顎に触れるのを防止する頸紐カバーの機能を発揮することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例を示す縦断側面図である。

【図2】図1の(2)-(2)線に沿える拡大断面図である。

【符号の説明】

1…帽体

2…衝撃吸収ライナー

3…頸バンド

4…耳カップ

10…表面素材

11…垂れ覆い